

日本環境安全事業ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会
東京事業部会議事要旨

J E S C Oでは、平成21年9月28日（月）に専門の知識と経験を有する学識経験者で構成されるポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会（主査：永田勝也 早稲田大学理工学部教授）を開催し、東京PCB廃棄物処理施設における操業状況について報告し、審議検討をいただきました。

検討の概要

東京PCB廃棄物処理施設における操業状況について

- 事務局より資料に基づき、平成20年度における操業状況、環境測定結果、トラブル発生状況及び設備改善状況等について説明を行った。主な意見は以下のとおり。
- ・ IPA 排気の協定値超過トラブルについては、流入 IPA の変動、その他の洗浄溶剤の影響を調査して、設備的な対策と運転管理上の対策の両面から講ずること。
 - ・ 環境測定のデータについては、長期的なデータを基に比較することも必要である。また、それらの測定データはHP等で公開することも必要である。
 - ・ 雨水測定については、直接雨水の測定も有効である。
 - ・ 血中 PCB については、引き続き推定原因に対するそれぞれの対策を進めること
 - ・ オンラインモニタリングについては、旧機と新機の運用は効率よく行ない今後の運用方針を明確にすること
 - ・ オンラインモニタリングを活性炭の性能評価に使うことも一案である
 - ・ 作業場内での排水等の漏洩は、所内全員が細心の注意を払って対処すること